

訪問看護ステーションたいよう

那須塩原市三島4丁目28-1-2

施設アピール

令和2年6月1日に、東北地域に初めて看護小規模多機能型居宅介護「ぬくもり」を開設しました。従来の訪問介護、通い、泊りに訪問看護を加えて、4つのサービスを一体的に提供します。更に令和3年2月1日より同建物内に訪問看護ステーション「たいよう」も開設いたしました。

地域に馴染みやすい暖かいイメージで「たいよう」と名付けました。

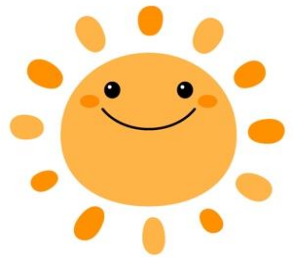
施設の役割や特徴

近年、高齢化が進み、医療的ケアを必要とする要介護者が増える中で、介護と看護の連携体制の必要性が、ますます高まりつつあります。

「たいよう」は看護小規模多機能型居宅介護（以下、看多機と略す）に併設する訪問看護ステーションです。そのため看多機に所属する看護師が自宅へ訪問します。看多機が開設して1年が経ち、看護師としての役割が見えてきました。現在は5人の看護師で、看多機登録者（27名中25名）に訪問しています。コロナの影響もあり、一時期は訪問よりも泊りが多い時がありました。今はバランスよく利用されている方たちがほとんどです。今後はケアマネジャーの皆様や地域住民の方々からの相談をお受けしながら、地域で看護や生活支援が必要な人たちに、手を差し伸べたいと思っています。

連携している主な医療機関

那須赤十字病院、国際医療福祉大学病院、那須中央病院、はらぐり二ツク



管理者 橋本幹子様
(看護師)



地域の人達から、何でも相談できるような施設になればうれしいですと、笑顔で話されていました。
(目指せ地域の宝)

ケアマネジャーとの連携について

現在は看多機の中でケアマネジャーと情報共有ができていますので、困っていることはないです。

関わった事例で心に残ったこと

79歳男性。咽頭がんのために、永久気管孔を増設されたご利用者様。在宅での看取りケアを行いました。ご利用者様は、発語困難な状態にあり、直接ご意思を伺うことはできなかつたのですが、主たる介護者でご自身もがんの化学療法中である奥様は、ご自宅で看取れたことに対して次のように話されています。「私のわがままのために、地域の介護サービスを使って多くの皆様が関わって下さったことに感謝します。」そして、某新聞の訃報欄にも同様のコメントを掲載されていました。奥様ご自身も在宅で看取れたことに満足されていたのではないのでしょうか。

今回の事例は他の訪問看護ステーションとの連携での訪問看護でした。我々看多機の看護師も、初めての事例なのでオールスタッフで手探りの状態のまま関わりました。毎日、朝夕2回、奥様が治療で不在の日は3回の訪問看護を行いました。本施設は地域密着型サービスなので、車での移動時間は5分程度です。頻回に伺う中でご利用者様、奥様との関係性が構築されていったのではないかと考えます。毎日食事介助をしていましたが、経口摂取が不可能となつてからは、点滴での水分補給となり、退院から22日目に永眠されました。

安らかなお顔でした。これから我々ができる関わりとしてはグリーンケアを行いながら、奥様の喪失感を少しでも軽減できればと考えています。

看多機開設から1年経過し、初めての看取りであり、学ぶことばかりの体験でした。

本事例を基にカンファレンスや研修を重ね、今後の看多機での訪問看護、看取り看護に繋げていきたいと思えます。



机に向かう橋本看護師さん、健康管理表のチェックかな？さすが国福大学仕込みのPC操作です。疲れたら、お庭の夏椿に癒されてくださいね！